

Aug. 20. 2010

JEKS (The Japan Electronic Keyboard Society)

# News Letter

No.10

## 日本電子キーボード学会ニュースレター ～日本電子キーボード学会「第6回全国大会」紹介号～

### 目 次

1. 第6回全国大会 . . . . . 2  
と き : 2010年10月10日(日) 10:30~18:00 \*懇親会 18:00  
と ころ : 昭和音楽大学南校舎 (小田急線新百合ヶ丘南口下車徒歩5分)  
内 容 : ・ 基調講演 “電子ピアノによるピアノ協奏曲からみえてくるもの”  
シュテファン・メラー (ピアニスト・指揮者/ウィーン国立音大教授)  
・ パネルディスカッション 今年の継続討論  
① 電子オルガン “ハードからみた電子オルガン演奏の新たな側面 - II”  
② M.L. “M.L. 授業のためのテキストを考える - II”  
・ 研究発表  
① 森下絹代 ② 佐藤美千枝 ③ 梅都優子 ④ 影山建樹・望月慎也  
⑤ 小澤真弓 ⑥ 小熊達弥 ⑦ 西山淑子 ⑧ 森松慶子  
・ 研究コンサート 管打楽器とE.Oによるハイブリッド・オーケストラ
2. 第6回大会内容の特長 . . . . . 3
4. 事務局から . . . . . 4  
・ ホームページ英文記事掲載  
・ ホテルインフォメーション  
・ 役員選挙  
・ メールアドレスの確認  
・ 主要駅から大会会場 (小田急線「新百合ヶ丘」) へのアクセス

日本電子キーボード学会 事務局

〒215-8558 神奈川県川崎市麻生区上麻生1-11-1 昭和音楽大学内 阿方 or 生頼気付

Tel : 044-953-1121 Fax : 044-953-1311

H.P. : <http://www18.ocn.ne.jp/~jeks/> E-mail : [jeks@snow.ocn.ne.jp](mailto:jeks@snow.ocn.ne.jp)

# 日本電子キーボード学会 第6回全国大会

と き：2010年10月10日（日）10：30～19：30

ところ：昭和音楽大学南校舎（神奈川県川崎市麻生区南麻生1-11-1）

アクセス：小田急線新百合ヶ丘南口下車徒歩5分 \*4ページ参照

10:00	《受 付》 5Fエレベーター前ロビー		
10:30	ごあいさつ 下八川共祐（会場校） 柳田孝義（学会代表） 5F階段教室		
10:45	基調講演 「電子ピアノによるピアノ協奏曲からみえてくるもの」（仮題） シュテファン・メーラー（ピアニスト・指揮者/ウィーン国立音大教授）		
11:15	総 会		
12:00	昼 食		
13:00	パネルディスカッション		
	Room-1 (3F)	Room-2 (3F)	
	“ハードからみた電子オルガン演奏の新たな側面 - II”～演奏の現状に対する課題と提案～ パネリスト：和智正忠、三枝文夫、森下絹代 司会・進行：柴田 薫 書記：海津幸子	“M.L.授業のためのテキストを考える - II”～伴奏づけや鍵盤楽器基礎技能などを中心に～ パネリスト：柳田孝義、赤津裕子、脇山 純 司会・進行：森 直紀 記録：未定	
14:30	休 憩		
15:00	研究発表		
	Room-1 (3F)	Room-2 (3F)	Room-3 (3F)
	研究発表① 電子オルガンのレジストレーションと演奏の重要性 森下絹代	研究発表② 生涯教育における清見塾の活動と今後の課題 影山建樹・望月慎也	研究発表③ アメリカ・イーストマン音楽学校のM.L.教育分析 西山淑子
15:30	小休憩		
15:40	研究発表④ タイにおける電子オルガンの社会認知について 佐藤美千枝	研究発表⑤ 福祉活動と電子キーボード～唱歌ボランティア講座～ 小澤真弓	研究発表⑥ アンサンブルでの電子オルガンのピッチとエフェクト 森松慶子
16:10	小休憩		
16:20	研究発表⑦ 昭和音大電子オルガンアンサンブルの課題と今後 梅都優子	研究発表⑧ 電子オルガンの音源を活用した録音のメリットと問題点 小熊達弥	
16:50	休 憩		
17:10	《研究コンサート》5F階段教室 電子オルガンと管打楽器によるハイブリッド・オーケストラの試み ・電子オルガン×打楽器 ムソルグスキー “展覧会の絵” より ・電子オルガン×管打楽器 ビゼー 組曲 “アルルの女” より		
18:00	懇 親 会 (1F学食)		

## 第6回大会の特長

- ・ 基調講演 シュテファン・メーラー／ウィーン国立音楽大学ピアノ科教授について

今年3月、JEO（ジャパンエレクトロニックオーケストラ）の定演でシュテファン・メーラー教授がベートーヴェンのピアノコンチェルト第3番をクラビノーバで演奏した。このように著名なピアニストがコンサートでクラビノーバを弾いた例は、かつてフリードリッヒ・グルダがリサイタルでバッハのインベンションを弾いて以来のことではなかろうか。ピアノコンチェルト、それも電子オルガン共演といったオールエレクトロニック楽器による演奏は世界初の快挙である。

### シュテファン・メーラー (Stephan Möller)

ザルツブルグのモーツアルテウム音楽院ピアノと指揮の学位を取得。国際ベートーヴェン・ピアノコンクールに入賞。ヨーロッパ、南北アメリカ、日本、韓国、中国で多くの演奏会を催す。レパートリーであるベートーヴェンの5つのピアノ協奏曲と32のピアノソナタは、何度も全曲を演奏している。ザルツブルグ音楽祭ではカラヤンを含む世界的に有名な指揮者のアシスタントを務める。1998年より、国際ピアニスト協会会長。音大で教鞭をとる傍ら、国内外での講演やマスターコースに頻繁に招かれている。VIPアカデミーを1999年に設立し、若いピアニストのための音楽フェスティバルを催している。

講演では、ピアニストからみた電子ピアノのタッチや響き、また指揮者という立場からみた電子オルガンアンサンブルなどに関する意見をヨーロッパ人の視点から聞ける絶好の機会である。

- ・ パネルディスカッション

ややもするとパネルディスカッションは、パネリストの発言に参加者がいくつかの質問をして終わってしまうことが多く、テーマに対する明確な方向性や結論を見出せないまま終わるケースがほとんどであった。それを是正するために本学会では、ひとつのテーマに対する方向性や結論を導き出すべく、昨年のテーマを継続ディスカッションすることにした。したがって、パネリストもほとんど昨年と同じ人をお願いして、より深化したディスカッションが期待できる。参加者もこの点を意識して参加されることが望まれる。

- ・ 研究発表

年々研究内容が多様化してきているが、今年度の発表者とタイトルをみると複数回発表している人は前回の内容をより発展したものが期待され、また初回の人アメリカ（西山淑子）やタイ（佐藤美千枝）といった海外の事例の発表を含むより広い分野の発表タイトルとなっている。

- ・ 研究コンサート

研究コンサートは、会場校の特長を活かした発表を行ってきているが、今年度は電子オルガン（電子音）と管打楽器（アコースティック音）によるハイブリッドオーケストラの2つの演奏が行われる。一つ目は、研究発表⑦で述べられたイスマ（世界音楽教育学会）世界大会 in 北京で演奏された電子オルガンと打楽器によるもの、二つ目は昨年度の研究発表で紹介された電子オルガン（弦楽器担当）と管打楽器によるオーケストラ授業で行われている演奏形態の紹介となっており、いずれも実践報告といえる興味深いものである。

## 事務局からのお知らせ

- ・ ホームページ英文記事掲載

ホームページに英文関連記事を載せて、学会をより広く知ってもらうことになりました。英文記事第1期として、①ごあいさつ ②お問い合わせ ③Voice of JEKS をネイティブのマイケル・ハイセン先生（前文教大学学長、アメリカ人）にお願いすることになりました。それに伴う学会英文名称について、幹事会としては、The Japan Society for Electronic Keyboard Music で略称はJSEKMを提案していくことになりました。総会などで協議して参ります。

- ・ ホテルインフォメーション

前日宿泊される方は、新百合ヶ丘駅前のホテルモリノ（044-953-5111）が会場に近くで便利です。学会特別価格 8,500 円（朝食はプラス 1,000 円）で交渉してあります。早目の申込をお薦めします。

- ・ 役員選挙

日本電子キーボード学会では2年に1度、役員選挙を行っていますが、今年度はその年に当たり、このニュースレターと同封で必要資料をお送りします。10月2日に開票し、10月10日の総会で承認を受けて次期役員が正式に決定の運びとなります。

- ・ メールアドレスの確認

ニュースレターはホームページの沿革にも掲載されていますが、添付が可能なメールアドレスが登録されている方々には添付でお送りします。このニュースレターがメールで受信されていなかった方は、事務局（jeks@snow.ocn.ne.jp）までご連絡ください。

- ・ 主要駅から大会会場（小田急線「新百合ヶ丘」）へのアクセス

新宿駅から小田急線（快速急行）で21分

渋谷駅から京王井の頭線急行、小田急線快速急行利用時17分（乗り換え、待ち時間は含まず）

横浜駅からJR横浜線快速、小田急線急行利用時34分（乗り換え、待ち時間は含まず）

「新百合ヶ丘」南口下車徒歩5分

### 《編集後記》

第6回全国大会案内号をお届けします。予定よりも大幅に発行が遅れたことをお詫び申し上げます。昨年度の第5回大会はひとつの区切りの年と位置づけられましたが、その意味では、今年は次なる10年に向けた新たな年といえます。会場も一区切りがついたということで、学会準備大会と第1回大会を担当した昭和音楽大学で行われることになりました。8月にイスメ（世界音楽教育学会）世界大会 in 北京に出席してその一端を垣間見てきましたが、私たちが行っている電子キーボードに関する研究や演奏は、国際的にみてもまだ手付かずの分野であることを実感させられました。このことは、私たちにとってやらねばならない新しい課題が山積していることを意味します。がんばりましょう。（阿方）